

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071900924		
法人名	医療法人吉峯医院		
事業所名	医療法人吉峯医院 グループホーム日の出		
所在地	福岡県田川市新町24番24号		
	電話 0947-44-5588 FAX 0947-44-2030		

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年8月2日	評価確定日	平成19年8月27日

【情報提供項目より】(平成19年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月20日		
ユニット数	2	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤	13人, 非常勤 6人, 常勤換算 14.64人

(2) 建物概要

建物構造	耐火建築S造り		
	3階建ての 2階 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	15,050円	光熱費等
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

登録人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	10	要介護2	3		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	1	要支援2	1		
年齢	平均 86歳	最低	72歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉峯医院 よしみね歯科医院 一本松病院 村上外科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人併設のグループホーム日の出は、商店街に面した3階建てビルの2・3階にユニット毎開設している。1階のデイケア利用者は地域の方々が多く、デイケア利用からグループホーム入居に至ることが多く、地域の要望で開設されたグループホームであることが伺える。入居者はデイケアのリハビリ機器の活用や行事参加、月行事である近隣の商店でのショッピングで地域と馴染みの関係作りをしているが、パンフレットの「安心して普通の生活を送る」の記載そのままに、個性豊かにのびのびと暮している。毎月入居者だけの話し合いの場を設けたり、レクリエーションやおやつに関するアンケートの実施、そして家族等に参加を呼び掛けた七夕会では、家族だけの意見交換の場を設けたり、家族アンケートを実施する等のホームの姿勢が、入居者主体の生活づくりの基盤になっている。管理者は、グループホームを地域に理解してもらうために、まず1階のデイケアの体操や取組みの見学等を近隣に呼びかけたり、運営推進会議での意見をホーム運営に活かしている。また、重度化に伴う治療方針を主治医、看護師、家族、職員等で共有し、入居者の安楽を図る介護計画に沿った支援が実践されつつあり、医療連携を具現化した地域密着型サービスが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を踏まえ、重要事項説明を廊下等の見やすい場所に掲示したり、担当者会議における入居者及び家族の意見を明記した介護計画の作成、ホームの苦情等窓口担当者の明記、職員の段階に応じた研修計画作成や実践、入居者の外出の希望に沿うためのドアマニュアルの作成等の具体的な取り組みがある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が外部評価を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議に関する規程を定め、市担当者・地域住民代表・家族代表、グループホームについて知見を有する者等の参加で2ヶ月毎に開催している。会議では前回の外部評価結果を報告したり、ホームの運営について意見交換をしているが、市担当者との意見交換の機会が多くなり、ホームの機能を地域に還元する取組みについて相談している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、公的機関の苦情担当窓口が記載されたポスターを掲示している。毎月入居者会議を開催したり、七夕会の折に家族会を開催しているが、率直な意見が伺いたいと入居者や家族のみで意見交換を行う時間も設定し議事録を整備している。また、独自に家族アンケートを実施し、ホームの運営に活用している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>介護サービス事業者の加入の前例がなく、自治会に加入できないが、代表者・管理者が近隣住民であるので自治会への個人的な参加が事業者の近隣への周知につながっている。毎月「日の出だより」を地域にも発行し、ホーム恒例の「七夕会」や運動会等に地域から多くの参加がある。入居者も盆踊りやお祭りに参加している。商店街へのショッピングで顔馴染みになっては商店主等から見守りの協力も得ている。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険制度改正に伴う地域密着型サービスの法令である「家庭的な環境、地域との交流の下」に沿って運営規定を見直している。運営理念は入居者や家族、訪問者が見やすい共有空間・事務室等に大きく掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会議で全職員で運営理念について話し合いを行い、理念の共有や意思統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	介護サービス事業者の加入の前例がなく、自治会に加入できないが、代表者・管理者が近隣住民であるので自治会への個人的な参加が事業者の近隣への周知につながっている。毎月「日の出だより」を地域にも発行し、ホーム恒例の「七夕会」や運動会等に地域から多くの参加がある。入居者も盆踊りやお祭りに参加している。商店街へのショッピングで顔馴染みになっては商店主等から見守りの協力も得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価を理解し、自己評価に取り組んでいる。前回の評価を踏まえ、重要事項説明を廊下等の見やすい場所に掲示したり、担当者会議における入居者及び家族の意見を明記した介護計画の作成、ホームの苦情等窓口担当者の明記、職員の段階に応じた研修計画作成や実践、入居者の外出の希望に沿うためのドアマニュアルの作成等、具体的な取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関する規程を定め、市担当者・地域住民代表・家族代表、グループホームについて知見を有する者等の参加で2ヶ月毎に開催している。会議では前回の外部評価結果を報告したり、ホームの運営について意見交換をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の開催により、管理者は市の担当者と意見交換の機会が多くなり、研修案内を配布し、ホームの機能を活用した取組みについて相談している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修会に参加し、制度のパンフレット等を整備している。入居者や家族に制度について説明しているが記録をしていない。	○	業務日誌や支援記録等に成年後見制度等を説明した記録をお願いしたい。又、運営推進会議で、成年後見制度等について学ぶ機会を設けてはいかがでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりは家族等の訪問時に報告したり、毎月発行している「日の出だより」に記載している。医療受診状況は、個別に記録し、随時家族に連絡している。預かり金は個別に出納帳を作成し、定期的に家族に報告し確認印をもらっている。職員の移動等は、家族が訪問した折に報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、公的機関の苦情担当窓口が記載されたポスターを掲示している。毎月入居者会議を開催したり、七夕会の折に家族会を開催しているが、率直な意見が伺いたいと入居者や家族のみで意見交換を行う時間も設定し議事録を整備している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者が医師で職務多忙のため、市担当者から了解を得て、施設長が運営者研修に参加予定である。運営者も毎月木曜日に定例会議に出席し、職員と意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の採用には、性別・年齢の制限はなくハローワークを活用しているが、実習を受け入れた学生を採用することが多い。就業規則が整備され、雇用契約書を取り交わしている。職員のストレス解消として、親睦会を開催したり、休息室を設けて生き生きと働ける環境づくりをしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権研修に参加したり、成年後見制度や虐待防止のパンフレットを職員に回覧している。身体拘束に関するマニュアルも整備され、年間研修計画を実践し会議録を整備している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、実施記録を整備している。新任教育は計画化作成担当者である介護支援専門員が指導している。職員の悩み等は、話しやすい職場づくりに配慮したりグループホームについて知見のある者に意見や情報提供をお願いしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会には入っていないが、他のグループホームに職員研修をお願いしたり、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービスの利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望には、体験利用や体験入居を経て入居になることが多い。同法人運営のディケア利用者が入居することが多く、また入居者もディケアのリハビリ機器を活用したり行事等へ参加しているので、馴染みの関係を構築しやすい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から「お疲れ様」とか「気をつけてお帰り」等の労いの言葉を掛けられたり、食器の洗い方等を教えてもらったりと、共に過ごし支えあう関係づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式を活用して入居者及び家族の意向、生活歴・病歴・生活状況や日常生活動作・状況をアセスメントしている。入居者の生活リズムや流れを日課表で確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントした生活歴、日常生活動作・状況等、入居者や家族の意向に沿って、全職員で個別的・具体的な介護計画を作成している。利用者を受け持ち制にして、物取られ妄想が起りにくいように配慮している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族が訪問した折に担当者会議を開き、モニタリング結果を話し合い、6ヶ月又は適宜介護計画を見直している。見直した介護計画は家族等に説明し確認印がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、家族の状況に応じて遠方の医療機関受診に同行し、重度化を防止している。同法人運営のディケアのリハビリ機器の活用や行事参加で心身の機能低下に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人運営のグループホームとして充実した医療連携を実施している。受診状況は随時家族に連絡し、業務日誌等に記載している。希望する医療機関受診も支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けて、主治医・看護師・家族・職員等で話し合い、治療方針に関する同意書を作成しているが、終末期に向けた方針を整備していない。	○	重度化のみならず終末期における方針の整備をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報についての取り扱い書や法人内における個人情報の保護に関する規程を整備しているが、入居者及び家族への交付やホーム内の掲示がない。職員は入居者の誇りを尊重した対応をしている。	○	個人情報の保護に関する規程や個人情報の利用目的に関する書面は入居者や家族に交付するとともにホーム内の掲示が望まれる。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活暦・生活状況等を把握し、各入居者のペースに応じた生活を支援している。入居者の意向で、商店街へ散歩、ショッピング等に出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の厨房で一括して調理しているので、月1回の調理レクリエーションや日曜日のおやつ作りで、メニュー、調理、味付け、配膳、片付け等で入居者の力量に応じた関りを支援している。各ユニット毎に職員一名が入居者と同じテーブルで味付けやメニューを話題にしなが、和気藹々と同じ食事をしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否があるときは無理強いをしないようにしている。ディケアの浴槽を利用して変化をもたせ、入浴が楽しめるように配慮したり、本人の希望にあわせて16時まで入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	東京センター方式による入居者の生活歴・職歴の把握やレクリエーションに関するアンケートを実施し、料理、習字、園芸等を支援している。入居者の意欲を触発するために、廊下や居室に習字や貼り絵等の入居者の作品を飾っているが、訪問調査当日は入居者から作品について説明を受けた。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	レクリエーションに関するアンケートの結果や月間外出計画に沿ってお花見や祭り、ショッピングに出かけているが、その日の入居者の希望で、外出することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2・3階で、1階にディケアの入り口があることや交通量の多い道路に面したロケーションのため、日中でも1階入り口はロックされている。各ユニットから1階に続く階段は夜間は施錠するが、日中はドアマニュアルを作成し、入居者の言動に応じた対応をしている。地区民生員や近隣の方々に理解や協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡網を作成し、避難訓練も実施しているが、地域と共催した訓練には至っていない。消火器を整備し、3日程度は使用できる水を常時屋上タンクに貯水している。	○	今後は地域の協力を得ながら非常災害訓練をお願いしたい。また、水以外にも非常災害用備蓄の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好アンケートを実施し、委託先の管理栄養士が入居者の状態に応じて食事量、栄養バランス、食形を考慮した食事を提供している。毎日の食事・水分摂取量や毎月体重測定を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2～3階に各ユニットが開設されている。透明な機材で仕切られ中の様子が見える共有空間があり、椅子やテーブル、入居者の作品、3階には観葉植物の植木鉢やプランターが置かれている。ホーム全体が明るく清潔である。廊下には、入居者の作品である季節感のある貼り絵や習字が掲示され、入居者の意欲を触発している。各階に2ヶ所お手洗いがあがるが、入居者の清潔保持ができるようにとシャワーを設置している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、箆笥等の馴染みの家具や日用品、手作りの作品で設置され、本人が過ごし易い居室づくりをしている。		